



生命と科学技術の倫理学：デジタル時代の身体・脳・心・社会

森下直貴編；栗屋剛 [ほか] 著. -- 丸善出版, 2016.

REVIEWER

医学研究科社会健康医学系専攻
M1

社会健康医学系の方が倫理について整理する上で必須の良書です

ヒトを対象とした研究を行うに当たり国内社会に求められる「倫理」の概念を習得することは、社会健康医学を志す学生や若い研究者にとって必須事項であり社会の責任であるとも言えます。2015年4月1日に我が国の研究倫理指針が大幅に改訂され、「疫学研究」と「臨床研究」が統合されて「人を対象とする医学系研究における倫理指針」のもとに統一的に審査されるようになり、ヒト幹細胞に関わる臨床研究の審査が「認定再生医療等委員会」に委ねられるようになりました(本書p230)。国内の倫理指針は世界の倫理指針を踏まえた方向性に向かっているために、倫理を学ぶ私たちは我が国のみならず世界の趨勢について広く目を向けることが重要になります。

本書では「先制医療preemptive medicine」に関する見解が述べられています(p34)。無症状で何ら病気に罹患していない国民に対して将来の健康を確保する目的で医療技術を提供(健康の先物取引)することをいうものですが、本書ではこの「先制医療」により逆に健康な我々国民(ヒト)に対して病名を付けて病人を量産してしまうという弊害が引き起こされる危険性を指摘し、先制医療を行う上での倫理について考察が述べられています。メタボリックシンドロームやHPVワクチン副作用等の具体的事例を通じ本来期待されるべき予防医療・先制医療についてのsuggestion(提言、提唱)に言及し、自分が予防医療をどう考えるのか自問自答する機会が与えられています。

(裏へ続きます)

461

1

Mo 65

医図開架

⇒⇒⇒

また近年国内外で設立されているバイオバンクで取り扱われる「ヒト胚」に関してはドイツの議論(胚も将来ヒトになる生命として尊厳されるべきであるとする観点)を引き合いに出し、「準人間」と表現することで今後の議論の行方を見据えた内容になっています(p252)。

本書はさらに「スポーツ」、「犯罪者」、「反社会性」、「動物」の分野まで倫理に関する検討がなされています。社会健康医学ではこうした社会を取り巻く多方面の分野における倫理観を身に付けることは意義深いと思います。

本書は現代倫理を理解する一助となる良書です。社会健康医学系の方にはまず本書を通読され、現代の生命科学領域における倫理を学習する一助としてほしいと思います。

受理：2017-03-21